

## 退任挨拶

前副会長

淵 上 正 朗



こんにちは。コマツの淵上でございます。2年間副会長を務めさせていただきましたが、大してお役に立てなく、大変恐縮しております。私、2000年度に当協会の常務理事を、1年間だけですが、やらせていただきました。先ほど萩原さんから何やら懐かしい飲み屋の名前も出ていましたが、短い期間でしたけれども、JIPAでは活発な活動に参加させていただきました。また、それ以来コマツにおいても、ずっと知的財産も担当しておりましたが、昨年にコマツの役員を、また今回、JIPAの副会長を退任ということで、私と知的財産との関わりも一区

切りかな、という思いも致しております。

ところで弊社は、最近、比較的業績の良い数少ない会社の一つということで、マスコミにもしばしば取り上げられているような状況でございますけれども、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、まだアメリカには、キャタピラー社という、建設機械部門だけをみてもコマツの1.7倍ぐらいの売り上げ規模の大きな会社がございます。建設機械のようなコンベンショナルな産業において、アメリカの会社の方が未だ上位にいるというのは、結構珍しいことだと思いますので、コマツにはまだまだ頑張り代があるのでは、という見方もしておりますが、ともかく、キャタピラー社は私の新入社員の頃からの巨人で、弊社は長らくその背中を追いかけてきたわけでございます。しかし、最近ではおかげさまで、同社も出していないような新製品、例えば、ハイブリッド建機とか、無人ダンプシステムとか、そういう新商品開発で、コマツはパイオニアのような役割を果たすようになってきており、感慨深いものがあります。しかし一方、最近、後ろを見ると、中国のメーカーがかなり力を付けてきていて、むしろ、追いかけて来る新興国メーカーの方が脅威ではないか、という危機感も湧いてきております。

というわけで、対先進国メーカーとの競争だけでなく、中国メーカーに代表されるような新興国メーカーからの追い上げに対抗するためにも、「他社より少しだけ良いものを作っていたのではだめだ、もっとはっきりわかる差別化をしなければならぬ」という危機感があります。皆さんの会社の多くも同じような状況だと思いますが、そのようなことでありますから、知的財産がいよいよ本当に出番なのだ、と感じています。そして、そのため、経営上さらに目に見えて役立つ知的財産部であってほしい、と思っております。

弊社の知財部門も、細かいところでは大いに活躍していると思いますが、これからは、もっと経営的に見てわかりやすい形で、すなわち経済効果の大きな特許などで、差別化を図るための主役となる出番が回ってきているのではないかと感じております。

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ということで、多くの皆さんも同様な状況だと思いますので、是非、「これからがよいよ本番だ」というおつもりで頑張ってくださいと思います。どうもありがとうございました。



## 退任挨拶

前副会長

太田賢司



シャープの太田でございます。2年間副会長を務めさせていただき、この度退任することとなりました。この間、竹中前会長、岡本会長並びに副会長、役員の方々をはじめとして多くの皆様方にお世話になり、ありがとうございました。

さて、私はシャープ株式会社入社以来一貫して研究開発に携わってまいりましたことから、技術者としての立場から知的財産権、特に特許に関わってまいりました。このため、こういった企業間の知財関係者の活動に接したのは、この副会長としての2年間が初めてでございました。総会・総会代行、理事会等の会合に出席し活動状況を聞かせて頂くにつれて、この協会の活動の重要性を深く認識するようになりました。

例えば、ここ数年の企業活動をみてみますと、これは程度の差こそあれどの会員企業についても言えることではないかと思いますが、新興国に活動の場を求めていっているというのが現実だろうと思います。こういう動きの中で知的財産権を的確に確保していくということ、そしてその権利を巧みに活用するということが企業活動の死命を制しかねない、そう思っております。

この観点から当協会の活動をみてみますと、2010年、2011年の2年間に各国の特許庁、日本の特許庁は言うに及ばずアメリカ、中国、韓国、あるいは、インド、マレーシア、フィリピンなどの新興国に至るいろいろな国の知的財産権関連施策等に対して意見、提言などを50件以上提出して下さいました。これはとりもなおさず、上に述べましたここ数年の企業活動に歩調を合わせたものでございます。この活動の活発さと領域の広さには改めて感心し、また、会員の皆様方のご努力・ご貢献に感謝している次第でございます。

さて、個々の企業にとっては、各国で具体的に知的財産権を成立させ、権利範囲を確定させ、活用を図るという実質面が今後ますます重要になり、この過程でいろいろな問題が起こってまいります。例えば、言語の問題、法律の解釈の問題などがあり、これらの問題は既に欧米諸国との間の国際的な企業活動の中で経験してきたこととございます。これらの問題が今後新興国との間で起こることが必然のように見受けられます。さらにまた、TPPに代表されるような各種の国際協調の議論の中で、新しいタイプの商標であるとか、デザインの法的な保護の問題であるとか、実に多岐にわたる問題が出てきております。当協会が個々の会員企業のこういった、現実に直面している問題、近い将来直面する問題を取り上げて、日本企業を代表する立場で各国に働きかける活動をますます推進していただければと思います。

私はここで任期を終えますが、今後とも協会の皆様方のご指導を頂きながらこの活動を支援してい